



NIフォーラムの実際のサイトより

ウェアラブル・ファッション＝ 新しい装着型メディアを特集 「ウォークマン」から「バウリング」まで

東京大学大学院新領域創成科学研究科
博士課程1年/NIフォーラム スタッフ
川原靖弘

NIフォーラムでは、引き続きウェブ上でのコンテンツ充実を図っています。ただいま増やしているコンテンツは、現在のサイト上の特集「ウェアラブル・ファッション」に関連しているものです。サイト上での最近のトピックスは図に示しましたが、工学系出身の多い我々フォーラムスタッフが考えるウェアラブル・ファッションというのが、いわゆるファッション業界のデザイナーにはどのような印象なのか、ということにスタッフは興味をもっているようです。

ウェアラブル・ファッションとは、ウェアラブル・コンピュータにファッションの概念を付加したものと理解していますが、「ファッション」という言葉自体が、人間の生き方や生活スタイルをベースにした広範囲な意味として用いられることも多いことを考えると、「体に装着すると生活上便利なコンピュータ」をウェアラブル・ファッションと呼ぶことができると思います。人それぞれ生活の場所はさまざまですし、ときと場合によっても、機能美からデザイン性までウェアラブル・ファッションに求められるものはさまざまだと思いますが、それを「ネイチャーインタフェイスⅡ 自然(あるいは生活環境)とのインタフェイス」の一部であると考えてしまうと、世の中にはもう、じつにいろいろなウェアラブル・ファッションが存在しているのです。

体に装着する機器で、もつとも我々の生活に馴染んでいるものはウォークマン(時間のずれは大きい

「NIフォーラム」は、技術者や学生、主婦など、職や年齢に関係なく、広範囲の視点から「ネイチャーインタフェイス」を語り合うために発足した、WEB上のサイトです。スタッフの多くは、東京大学新領域創成科学研究科の学生たち。「自然環境、生態学」「生活スタイル、情報家電」「テクノロジー」「本、映画、音楽」の4つを柱として、活発な意見交換をおこなっています。

NI
forum

e-mail:forum@natureinterface.co.jp

<http://www.natureinterface.co.jp/forum/index.html>

皆さんのアクセスをお待ちしています！



イメージ画像作成：竹石 渉

が、環境メディアである音情報をどこにいても音にしてくれるインタフェイス）であり、ウォークマンを使用することで生活スタイルが大きく変わった人も少なくないでしょう。また赤外線スコープ（通常は見えないが生物にとって意味をもつ情報である赤外線という環境メディアを、リアルタイムに可視化するインタフェイス）や補聴器（生活環境中の音情報を、装着している人が聞こえる音に変換するインタフェイス）なども、ある人にとってはウェアラブル・ファッションであるといえるでしょう。

フォーラムのサイトでも紹介していますが、最近では「パウリンガル」という犬に装着する犬語翻訳装置（犬と人間とのコミュニケーションで重要な、犬が発

する音声情報を日本語に変換して表示するインタフェイス）も話題になっていきます。自然界を含めた我々の生活環境の中には、音・光・におい、もしくは人間の五感では感知できないものまで、個々の生物にとって何らかの意味をもつメディア情報が存在しているわけですが、それらの情報もつメディアとしての意味と我々の生活との関係が明らかになってくるにつれて、それぞれの生物の生活によりフィットした便利なコミュニケーションツールⅡネイチャーインタフェイス（ネイチャーインタフェイスの役割をする機器）が求められてくるはずです。このようなニーズに応え得るウェアラブル・ファッションの開発も今後活発になることが予想されますが、それらは、装着者の生活スタイルに合わせるという高度なデザイン性も兼ね備える必要が生じてくるでしょう。

ウェブ上でのNIフォーラムもぼちぼち意見交換が始まりました。ウェアラブル・ファッションに限らず、「こんなのもネイチャーインタフェイスなのかな」とか「トピックで紹介されているものより面白いものを知っている」など、NIについて興味があることがありますしたらNIフォーラムサイトをご覧になって、ぜひフォーラムに参加してみてください。